

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2016年8月24日 Vol. 139 発行者:森田正樹 編集:広報部

〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4F 秘書課内

TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

Francescas 村で西宮の子供たちの絵の展示会開催

マリーさんからのおたより

(マリーさんから市秘書課へ便りが届きました)

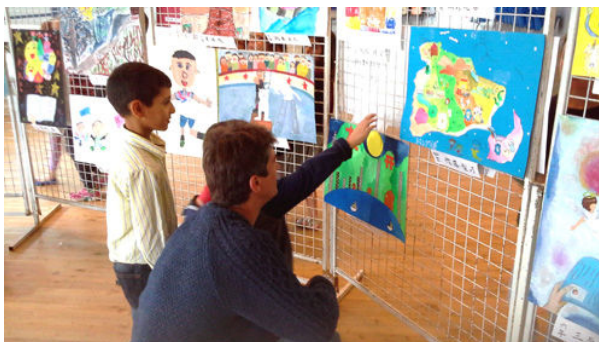
3月に西宮市民ギャラリーで開催されたユネスコ世界児童画展においてロット・エ・ガロンヌ県の3つの学校の子供達の描いた絵が展示されたのを覚えていらっしゃいますでしょうか。

出展のお礼としてロット・エ・ガロンヌへ西宮の子供達の描いた絵30枚がユネスコ協会より送られました。マリーさんが、西宮へ絵を出展した学校の1つがあるFrancescas という村でその学校の生徒と保護者を対象に西宮の子供たちの絵の展示会を開いてくださいました。その時の写真を送っていただきました。

マリーさんによると、この学校での展覧会は小さな村での大きなイベントだったそうです。

その写真の一枚が市政ニュース、8月10日号のユネスコ世界児童画展の紹介記事の中で使われています。西宮にお住まいの方はぜひ、ご覧下さい。

また、マリーさんは、今はご家族やご親戚とバスク地方でバカンスを楽しんでおられるそうです。うらやましいですね。



一緒にフランス語をやりませんか？

当会では、日仏草の根交流活動の一環として、フランス語教室を設けています。

2008年5月の開講以来、楽しく、わかりやすく、使えるフランス語を少しずつでも身に付けて頂こうと心がけてきました。

学校とはちがったNLeGならではのなごやかな雰囲気の中で、きちんと基礎や文法も学んでいます。また発音やイントネーションのトレーニングを重視し「通じるフランス語」をめざしています。

10回単位での登録制ですので、個人個人の生活やご事情にあわせて、出たり入ったりしつつも、結局は長く続けておられる方が多いです。

11月にはロット・エ・ガロンヌからの友人たちの来訪も予定され、また来年は友好提携25周年、NLeGとして訪問団を結成する企画もあります。何か一言、二言でも自分で直接フランスの友人と話してみたい、と思われませんか？

長らく、入門クラスの新規開講はありませんでしたが、今回、10月～12月、5回だけのお試しコースを開きます。全く初めての方、またはゼロからやり直したい方向け。

楽しさがちょっぴりわかったら、1月からは10回の通常コースに移行する予定です。

ちょっと気おくれしている方も、今さら…と思っている方もぜひ、一同体験コースにお越しく下さい。また友好都市交流の趣旨に賛同して下さる方でしたら、ご友人、お知り合いも是非お誘いください。

(NLeGへの入会をお願いいたします)

記



- 開講日（予定）：10月17日（月）13：30～15：00
12月19日（月）までの間、おおむね隔週月曜日、計5回
- 場 所 ： フレンテ西宮4階 （財）西宮市国際交流協会会議室
- 参加費 ： ￥7500 （5回分前納）+ 教材費（当初はコピー代程度）
- 講 師 ： 佐藤 祥子 （日仏通訳翻訳業。滞仏10年。仏検1級・特別賞受賞
1994～2005 西宮市市長室に仏語通訳として勤務）
- 問合せ・申込み：e-mail:shokosucre@hotmail.com Tel:090-4273-5483 佐藤まで

森田 正樹

日本人として生まれ、フランス人レオナール・フジタとして亡くなった「生誕 130 年記念 藤田嗣治展」が、今兵庫県立美術館で開かれています (9 月 22 日まで)。

1886 年東京で生まれた藤田は、東京美術学校卒業後 26 歳でパリに留学します。第一次世界大戦の勃発や、日本からの送金が途絶え苦しい生活を余儀なくされるなどの困難はあったものの、1917 年の初個展以降着実に実績を積み重ね、19 年にはサロン・ドートンヌで初入選し、その評価は最高のものとなります。乳白色の下地の質感の素晴らしさと面相筆による繊細で豊かな輪郭線で描かれた裸婦や猫で人気をえた藤田は、エコール・ド・パリの寵児として大成功をおさめました。独特のオカッパ頭に丸眼鏡の自画像が思い浮かぶ方も多いことでしょう。一方で、藤田の奇抜な外観や派手な社交生活が「道徳上非難の余地ある画伯」という批判もまねきます。

何度かの帰国や海外旅行を経て (その都度パートナーも代わったようですが)、1940 年頃、藤田はオカッパ頭をやめ丸刈りにし、のめりこむように戦争画の制作に没頭します。そして「アッツ島玉砕」「サイパン島同胞臣節を全うす」などの力作を生みます。戦意昂揚の絵というより戦争の悲惨さをまざまざと描きながらも、その抜群の迫真性を持って見る人に感銘を与えます。藤田は「この世に生まれた甲斐のある仕事をしました」という充実した喜びを得ます。それがのちの悲劇をもたらします。

戦後、美術界の戦争責任の追求が始まり、特に目立った存在であった藤田は戦争協力を批判されます。そのため 1949 年米国に向かい、翌年フランスに移住した藤田は二度と日本に戻りませんでした。

55 年フランス国籍を取得、59 年ランスのノートルダム大聖堂でカトリックの洗礼を受け、66 年ランスに聖母礼拝堂 (フジタ・チャペル) を寄贈します。68 年 81 歳で死去、ランスの大聖堂で葬儀が行われました。

生前「私が日本を捨てたのではない。捨てられたのだ」と言っていました。



《自画像》1929 年東京国立近代美術館蔵

この展覧会は全国 3 箇所で開催される巡回展で、スタートは名古屋市美術館でした。名古屋市美術館は藤田が結ぶ縁でランス美術館と友好協定を締結しており、遺族がランス美術館に寄贈した約 800 点の中からも多くの作品が展示されています。

さらに、フジタとランスのシャンパン会社マムの社長ルネ・ラルーと親交があり、フジタは 1958 年に《マム ロゼ》のラベルにバラを描いています。カンヌ映画祭でも振る舞われたこのロゼのミュズレ (王冠) には現在も『フジタのバラ』が描かれています。名古屋市美術館でのオープニングのレセプションにはこの G.H. MUMM Rose が提供されました。ピノ・ノワールなどの赤ワインがブレンドされ独自の深みから生まれる優雅な味わいとイキイキとした口当たりを私も十分に楽しむことができました。